

No. 1394

新春の天皇ご一家

おだやかな初春の日ざしに包まれた皇居。天皇ご一家はお揃いで新年を迎えられました。天皇陛下は今年80歳になられますが、ますますお元気。浩宮、礼宮、紀宮の三人のお孫さまも成長され、楽しみの多い天皇ご一家です。

'81 初 春

— 静岡・下 田 —

1981年の初春を静かに迎えた静岡県伊豆半島。陽だまりに咲き誇る野生の水仙が、半島の温かさを教えてくれます。今から130年前、突然下田沖に現われた黒船、半島の南端に位置する下田市は日本の夜明けを告げた開国の町として知られています。町のいたる所に、開国の歴史を示した史跡の数々が見られます。日米両国の初の国交を記念して建てられた開国記念碑、若き吉田松陰は広く海外の知識を得ようと密航を企てましたが失敗。春の日ざしを一身に受けてはばたくかもめたち。そう、力強くはばたけ、激動の時代に。

たくみ

匠 の 里

— 岐 阜・高 山 —

一位の木比類なき美しさを生かした工芸品、一位一刃彫。飛驒の小京都と呼ばれる岐阜県高山市。美しい自然と長い歴史にはぐくまれたこの町はまた飛驒の匠の里でもある。今は昔、大和朝廷のころ、税制のかわりに手先の器用な飛驒の人々は遠い都に上り、社寺の造営に従った。これは飛驒の匠のはじまりと言われている。そうした匠の技と心を今もこの町に住む多くの人々が受け継いでいる。津田亮定さん（56才）もそのひとりだ。津田さんは一位一刃彫の伝統を受け継いで40年になる。一位一刃彫は約360年前、木で作った笏を朝廷に献上、また高山城主金森長近の茶道具として多く使われ、その技術は江戸時代末期、松田亮長が独創的な方法をあみだし完成させたものである。数十種もの多くのノミのタッチをたくみに活かして作る一位一刃彫。津田さんはいま、ことしのエト、トリの作品に打ち込んでいる。鋭いノミの刃が木の表面を走り、津田さんの心が刻み込まれて行く。静かに時が流れ、あざやかな木目と共にトリはその姿を現わしてゆく。木と向いあってちょうど一週間完成されたトリはあのにぎやかな本もののにわたりの様だ。一刃彫も近ごろでは後継者難だ。津田さんの後継者は2人の息子さんだ。2人とももう津田さんに負けないくらい成長した。今はよきライバルだと津田さんはいふ。彫刻の妙技とまでうたわれた飛驒高山の一位一刃彫。その歴史と伝統はこうした人々によって守られているのである。